

世界に魅せる日本の技術

日本の下水道処理人口普及率が80.1%に達した一方で、水環境・公衆衛生に課題を抱える国々はまだ数多く存在します。各国の「水」にかかわる全ての課題解決をサポートすべく、日水コンは技術力の向上とリーダーシップマインドを持った人材の育成に取り組んでいます。

人材を育て、途上国が抱える課題の解決に取り組む

日本発 推進工法基準書の東南アジアへの展開

日水コンは、GCUS東南アジア委員会(委員長:森田日本大学教授)の活動支援を通じ、大深度・超長距離・急曲線に代表される「日本発推進工法」の東南アジア諸国への展開をサポートし、東南アジアでの水道・下水道管路等の整備促進に貢献しています。



海外業務の「壁をなくす」WIN室

グローバルな視点で広く活躍する人材育成を目的とし、日水コンではWorld Incubator室(WIN室)を創設し、ネイティブ講師による英文PRのオンライン公開講義やe-learningでの上下水道の英文専門用語を学ぶ機会等、自発的なキャリア形成のための機会を提供しております。また中東政府機関向けウェビナー業務にて本邦技術を紹介するオンライン・ワークショップにてプレゼンや質疑応答を行う等、専門能力と英語力を同時にスキルアップすることを全社的に支援しています。



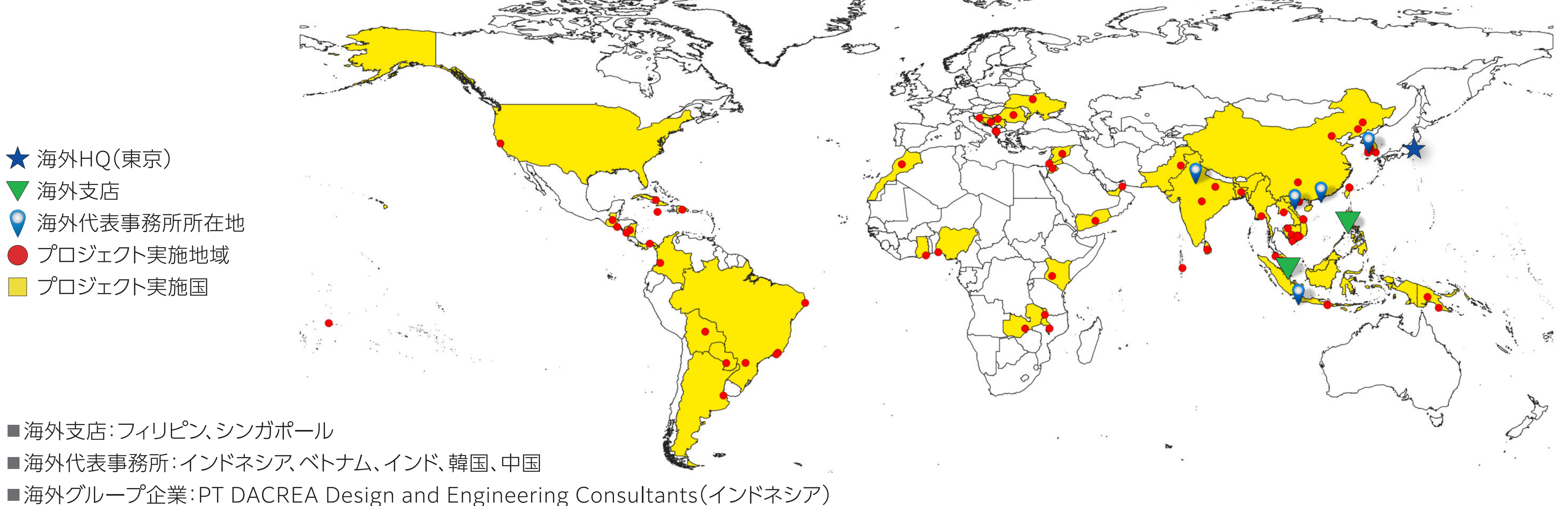
若手社員の挑戦



私は入社から5年間国内事業部にて研鑽を積んだ後、昨春より海外事業部に異動し、現在フィジー共和国下水道マスタープランプロジェクトに参加しています。海外業務は驚きと発見の連続で、これまで見たことのない水処理方式や、思いがけない課題が飛び出してくる毎日です。業務を進めるにあたっては、当地の気候条件や下水の特徴、法律や人々の価値観等を考慮し、「国内で学んだセオリーはこの国でどんな風に適用できるだろう?」と常に自分に問いかけています。当地での下水道整備が計画の策定だけで終わってしまわず、施設の建設や適切な運営が実現されるよう、実情に沿った計画をカウンターパートと共に作り上げていくことが目標です。

海外事業部 2年目社員

世界各国において下水道を支援



世界を舞台に、
若手社員メキメキ成長中!

